

科目名: **史学概論Ⅱ** 先生

開講曜日: **木曜日 4時限** 教室: **明96** 号教室

テキスト: 有・**無** (テキスト名:)

講義方法: テキスト・**レジュメ**・パワーポイント・板書

板書: とりやすい・とりにくい・**なし**

出席: 毎回とる・**たまにとる**・まったくとらない



先生の説明: **わかりやすい**・わかりにくい

レポート: あった()回・これからある予定・**なし**

小テスト: あった()回・これからある予定・**なし**

この科目の情報をインターネット上から得ることは可能ですか?
YESの場合、そのアドレスや内容 YES・**NO**

i) マークについて

-  その講義における重要なポイントや、特に注意する必要がある時に使用しています。
-  先生の考えや特にあらわれている部分や、特に詳しく説明された部分に使用しています。
- * 補足説明です。
- ※ ノート執筆者による補足です。

ii) 記述について

- 冒頭に、レジュメのタイトルを示しています。
- 講義はレジュメ+口頭説明によって行われており、大部分は口頭説明部分を記述しています。
- 講義に欠席した人には後からレジュメが配られるなどのフォローがないため、要約ではありますがなるべく内容を記述するようにしました。
- 試験の内容から、講義内で紹介されるすべての文献を記載しました。ご活用下さい。
- 番号は基本的にレジュメの記述・口頭説明に沿っていますが、英数小文字はノート執筆者が便宜的につけています。(i),(ii),(iii)...

第1講 9月29日(木曜)

●本日の授業のようす

出席	<input checked="" type="checkbox"/> だった (コミュニケーションペーパー) <input type="checkbox"/> とらなかった
小テスト	<input type="checkbox"/> あった <input checked="" type="checkbox"/> なかった
ビデオ	<input type="checkbox"/> みた <input checked="" type="checkbox"/> 見なかった
レジュメの配布	<input checked="" type="checkbox"/> あった (3枚) <input type="checkbox"/> なかった
教科書	<input type="checkbox"/> 使った (P. ~P.) <input checked="" type="checkbox"/> 使わなかった

●本日の重要ポイント・まとめ・類出語句など

- 史学概論とは何か - 「学問」としての歴史の在り方。
- 研究態度: 明確な問題意識を持つことの重要性。

●テストのことで先生がふれたこと・情報

- 講義中にとりあげる参考文献を少なくとも一冊読んで、その本についての内容・感想・考察を記述する形式の試験を行う。

★史学概論とは何か?

まず、そもそも「歴史学」が何であるかを問うことから始めよう。

- 歴史哲学 … 歴史観の研究。
「人間にとって、歴史は何であるのか」
- 史学史 … 歴史学の研究史。
「歴史の研究がいかに行われてきたか」
- 方法論 … 研究法の議論。
「歴史を学ぶには、どのような方法があるか」

上記3つは全く別々の学問ではなく、それぞれ影響あって発展してきた。

「史学概論」カリキュラムの調査研究

「史学概論」という分野の講座があるのは、日本だけである。では、それはどのように行われているのだろうか。

• モデル案 (レジュメ)

- (1) 「古典的」な「史学概論」案
- 林健太郎『史学概論』1953(増補版1970)-

* どのように「歴史」が研究されるかについて学ぶことを目的としている。

(2) 古典的著作に学ぶ

- * 歴史学の著作に触れることで、研究の方法を知る。
取りあげる著作が、何を問題としているかを知り、それによって歴史を知ろうとする。
例えば、ここでは マルクス・ウエーバー『社会の支配学』によって、「類型学の方法」を学んだりする。

(3) 史料にもとづく ケーススタディ

* 「史料」には、それを作った者の視点によって何らかの偏りが見られる。それをいかに読み解くかを学ぶ。


(4) 歴史学の学びかた

* 「歴史学」の定義には限り、最終的に論文の校正のしかたまでを学ぶ。一般的で「バランスのとれた「概論」。

歴史を学ぶ態度・方法を学ぶのが、史学概論の主な目的である。

何故、歴史を学ぶか (←についてのコミュニケーションペーパー提出)

この問いを発すると、「～が好きだから」という答えが返ってくる事が多い。

 確かに、「好き」ということは重要だ。学問の興味はそこから始まるからだ。…しかし、学問は趣味や道楽と同次元にあてはならないのである。



- 学問は…
- ① 社会の要請に応じるべき。
 - ② 純粹に「学問」として行われるべき。
①に対する批判より「政治的イデオロギー」の介入によって、学問としての立場が危くなる。
 - ③ 今まで知られていない事実を知らせるべき。

いずれにせよ、歴史学・学問する上では、「明確な問題意識をもってあたること」が必要なのである。

 定期試験について

講義中に「参考文献」としてあげるもののうち、少なくとも1冊を読み、その本についての内容・感想・考察を述べる。

(以下は、第1講レジュメ記載の「文献目録」です)

1. E.H.カー (清水幾多郎 訳) 『歴史とは何か』 岩波新書、1962年
2. R.G. コリングウッド (小松・三浦 共訳) 『歴史の観念』 紀伊國屋書店、1970年
3. 林健太郎・澤田昭夫 共著 『原典による歴史学の歩み』 講談社、1974年
4. 齊藤孝 『歴史と歴史学』 東京大学出版会、1974年